

独立歩兵第二十二大隊
 独立歩兵第二十三大隊
 野戰重砲兵第七聯隊
 独立機関銃第七大隊
 独立速射砲第三十三中隊

直轄部隊

独立歩兵第二十二大隊
 (独立歩兵第二十二大隊第一中隊、独立機関銃第十四大隊、第十二中隊、馬車)
 独立歩兵第二十三大隊(第一中隊、馬車)
 野戰重砲兵第七聯隊
 独立機関銃第七大隊
 独立速射砲第三十三中隊
 第六十二師團工兵隊
 第六十二師團通原隊
 第六十二師團輜重隊
 第六十二師團野戰病院
 第六十二師團馬廠
 野戰作井第十四中隊

第二期

自昭和十九年十二月
 至昭和二十年一月

第二次配備変更迄

第七師團一轉進ハ沖繩本島所備ニ致命的ノ打撃ヲ加ヘ全面的ニ作戰計畫
 ノ変更トナリ數日ニ亘ル苦心ノ陣地ハ其功效ナク配備ヲ変更シテ更ニ新ナル
 築城ヲ開始セサル(カラサルニ至リタルハ將兵ノ志氣ニ影響スル所甚カラサルモ、アリ
 タリ
 而テ軍ハ敵ヲ水際ニ撃滅スル最初ノ方針ヲ放棄シ中部嘉手納地区ニ上陸後
 南下スル敵ヲ陸正面ニ於テ殲滅スル方針ト下ニ配備ヲ決定シ陣地構築ヲ開
 始セリ

師團ハ諸種ノ手段ヲ以テ之ヲ將兵ノ志氣昂揚ニ勉ムル共ニ陣地組成ニ細
 心ノ研究踏査ヲ加ヘ軍ノ作戰方針ニ則リテ敵ヲ陣前ニ殲滅ス(一ノ十二月始メ
 ヲリ陣地構築ヲ開始セリ
 師團ノ兵力配備附圖オシ

一、築城

當時ノ諸情報ヲ綜合スルニ敵ハ昭和二十年三月末或ハ冒初旬ノ候ニ於テ大挙
沖繩本島ニ進攻スル公算極メテ大ナルモアリニテ作戰方針ノ変更ハ勢ニ
築城組織ニ相当ノ變化ヲ招来シ本島西海岸牧港以南那覇ニ至ル由ハ依然
木際數千ヲ踏襲シ其他ノ地区ニ在リテハ數月ニ亘リ將兵ノ心血ヲ注キテ構
築セシ陣地ノ大部ヲ放棄シテ後退配備ノ陣地ニ轉換スルノ止ムナキニ至リ其
ノ主陣地ヲ概不露敷東西ノ線ニ遠避シテ晝夜兼行作業ニ從事シ其ノ完
成ヲ急ギタルニ勞力及資材ノ不足ハ作業ノ進捗ニ影響スル所多ク成果
意ノ如クナラサルモアリテセトトシテ不足ハ重要火具ノ銃眼施設ノ
要ホク充足スルコトヲ得サレ状態ニテ其ノ多クハ木材ヲ以テ之ニ代用セリ

二、教育

配備ノ変更ハ全般ノ情勢上陣地施設ノ急遽ナル完成ヲ強度ニ要求セラ
ルルニ及シ之ニ要スル勞力ハ増加ノ方途ナク急ニ將兵ハ晝夜ノ別ナク陣地掘
削ニ盡精ニシテ暇ナキニ至リシヲ以テ教育方面ハ忽ニ附スルニハアラサルモ自然
之ヲ指導シテ相當ノ成果ヲ收メ得タリ
分隊長以下ノ教育ニ由テハ築城ノ關係上專ラ各部隊長ノ責任ニ任せ
十日入隊現地初年兵ハ依然各部隊毎ニ集合教育ヲ續行セリ

三、兵器資材

兵器ハ特ニ記述スルキ事項ナシ
資材

築城資材中抗木ハ第一期ニ於ケル状態ヲ緩和スルニ至ラサルヲ以テ配備変更
ト共ニ新防衛地区以テ資材調査ヲ実施シ努メテ之ヲ各隊防衛地区以テ於テ
伐採取得スル如ク定ムト共ニ國頭地区ニ集積スル抗木輸送ノ急務ニ
燃料増加ヲ要請シ辛クニテ需要ヲ充足スルコトヲ得タリ
セシトハ既ニ大半ヲ消費スナリテ新陣地ニ對シテハ短ト期待シ得サルモノ

下り止公ナク重要火災ノ大部ニ至ル迄木材ヲ以テ代用セシメタリ
金屬品ノ不足ニ対シテハ那覇、嘉敷、泡瀬等ニ鍛工場ヲ設置シテ代用品ノ
急造交付ニ努ム支障ナキヲ得タリ

四、經理

被服糧秣消耗品等ニ関シテハ第一期ニ記述スル所ト大差ナシ然レ共將兵ニ對
スル甘味占其他酒保用品ノ補給僅少ニシテ需要ヲ充タスニ足ラサル現況ニ鑑ミ
民需ヲ圧迫セサル程度ニ於テ現地調辦ヲ実施シ或ハ菓子其他甘味品ノ
製造工場ヲ急造シテ自製補給ニ努ムル結果菓子不足ヲ来スコトナカリキ
兵員ノ收容ニ關シテハ軍ノ要求嚴ナルモノナリ一部學校公會堂等公家家屬ヲ
充當スルノ外急造「バラック」ヲ構設ニ着手シタルモ之ニ要スル板材ノ補給ナキ爲
地方製材工場ト協定シ國頭地区ヨリ原木ヲ補給シテ製板ニ事クモ最小限ノ需要
ヲ確保セリ

現地自治ハ各部隊ノ努力漸ク結果ノ緒ニ就キ成果概不良好ニ將來有望
視セラルルニ至リタル處先配備ノ変更駐屯地移轉等ナリ爲シ大キノ部隊ハ
收穫ニ至ラズニテ其ノ居ヲ轉シ新ニ耕作ヲ開始セシカ陣地施設ト併行的ニ實施
スルト困難ニシテ耕作面積ハ甚シク低下セリ

魚肉等ノ補給調達殆ト不可能ニシテ現地自治モ亦駐屯地移轉等ノ障害碍
ヲ受テナリシカ地方漁師ニ依リ魚類ハ各部隊毎ニ地区ヲ配當シテ之ヲ取得ヲ
容易ナラシメタル結果十分ノ額ヲ得サルモ最低量ヲ確保スルニトヲ得タリ

五、兵器及物資ノ集積

作戰計畫ノ變化に伴ヒ物資ノ集積ハ其ノ位置ヲ轉移スルノ要ヲ生シ附回
第ニ如ク進退ニ優先的ニ埠頭埠貨ノ集積ニ努ムル一方既集積物資ノ格
紙換ヲ實施セリ然ルニ輸送力ノ不足ハ物資ノ搬送意ノ如クナラズ本期間
中既集積物資ノ大部分ハ格紙換不可能ニ終レリ
地方物資ノ利用ニ關シテハ戰鬥間ノ所要ヲ豫想シ民需ヲ圧迫セサル範圍ニ於テ

面粉、砂糖、薪炭其他の物資ヲ購買蒐集スルニ努ム

六、輸送

配備変更ニ伴フ輸送用トシテ若干ノ自動車燃料ヲ支給セラレタルモ元來
當師團ノ個有輸送力ハ僅少トシテ常時ノ輸送スラ充テ得サル状態ニ在リ
然レニ第六四旅團ノ知念半島移駐ニ伴フ輸送量ハ極メテ尠大ナル數ニ
達シ自動車一中隊ヲ以テシテ八到底輸送終了ノ見込ナキ状態ニアリ此処ニ
於テ輸重隊長ノ意見ヲ容シ全面的ニ輸送統制ノ企圖ノ下ニ先ハ從來
師團經理部ニ於テ運用セシメテリタル船舶(山原船)十九隻ヲ輸重隊長ノ指
揮ニ移シ之ヲ輸送ヲ實施セシムト共ニ隸下各隊保有ノ地方荷車ノ大部モ集
結シテ統一輸送ノ準備ニ着手セリ

註

一、部隊移駐ニ伴フ輸送量ノ尠大ナルハ師團ニ屬シテ保有スル中彈藥種林
其他ノ資材ヲ第一線各大隊ニ保管セシメタルニ因ル

當時天候不良ニシテ海波高ク海上輸送ハ相當ノ障礙ヲ受ケタルモ師團輸
重ノ車献身の努力ニ依リ成果良好ニシテ一月中旬概テ其ノ輸送ヲ完了
セリ、

一月末隸下各部隊ノ地方荷車ノ大部又師團ニ於テ利用スル運用品得ル
輸送諸機關ノ全部ヲ師團輸重ニ統合シ同隊長ヲシテ計畫輸送ヲ實施
セシム

七、通信

兵力移動ニ伴ヒ既完竣ノ幹線ノ一部ヲ撤去シテ新駐地ニ対応シ施設ヲ實施
スル傍ヲ新配備ニ伴フ一部ノ修正ヲ加ヘ益々之ヲ補強完備ニ努ムト共ニ
中間要地ノ補線ヲ振興ニ着手ス

八、衛生

築城作業ノ繁激ニ伴フ宿營施設ノ不備ハ勢ヒ過勞ニ因ル諸種ノ疾病ヲ
發生シ衛生成績ハ漸次低下ノ傾向ヲ示シ師團ハ各隊ニ積極的保健法ノ實施
ト兩向交代制ニ依リ努力シ均介保給養ノ適正ヲ要求シ兵員ノ衛生成績ノ

向三勉ナリ而三テ配備ノ変更ニ伴ヒ傷病患者ノ治療施設ヲ左ノ如ク変更セリ
師團野戰病院ヲ本部ヲ中城村陣營ニ移轉開設ニ各一部ヲ以テ國頭即屋嘉及中頭即珣添村仲向ニ遷移ニ療養所ヲ開設セシメ小那覇療養所ヲ閉鎖セシム

九、前馬車

師團ハ戰場機動ヲ輕快容易ナラシムル爲メ馬匹ノ充足ヲ痛感シ豫テ現地馬匹ノ徵發ヲ軍ニ要請シテリタルニ昭和二十年一月、原師成復帰ヲ令セラレ同時現地馬匹ノ徵發ヲ指令セラレ
師團ハ騎重隊長以下所要ノ人員ヲ以テ馬匹徵發委員ヲ編成シ所衛地区ニ再匹ノ徵發ヲ実施シ所要馬匹ノ最小限ヲ充足セシメタリ
徵發馬匹ハ飼育管理ノ急激ナル変化ノ遂業長漸次低下ニ消允器疾病多発ノ傾向アリ之ヲ防止シテ手段トシテ師團騎重隊長ヲ以テ部下將校ヲ

歩兵兩旅團ニ派遣シ馬匹ノ使役管理ニ與スル指導ヲ行ハシム

第六十二師團

長

軍隊區分

中將 本郷義夫 (二月轉任後中將藤岡武雄)

第六十二師團司令部

步兵第六十三旅團

長

少將 中島德太郎 (三月中將二進級)

步兵第六十三旅團司令部

獨立步兵第十一大隊

獨立步兵第十二大隊

獨立步兵第十四大隊

獨立機關銃第四大隊

獨立連射砲第三大隊 (中隊隊定)

步兵第六十四旅團

長

少將 有川圭一

步兵第六十四旅團司令部

獨立步兵第十五大隊

獨立步兵第二十一大隊

獨立步兵第二十三大隊